

第5期事業報告書

(2008年4月1日から2009年3月31日まで)

特定非営利活動法人アーシャ＝アジアの農民と歩む会

本会がインド・U.P.州アラハバード県にあるアラハバード農業大学継続教育学部を中心にアジアの農村開発、農村教育、人材養成、女性の地位向上、農村衛生・保健事業に協力、支援して5年の歳月が過ぎた。これまでに、本会の多くの支援者、日本の財団などの多大な支援、協力があり、ここまで大過なく事業に邁進できた。心より感謝したい。

2008年度において特に、顕著であったのは、アーシャ学校の基盤整備の充実、児童を対象とした環境教育分野の充実、農村母子保健、および食品加工及び収入向上事業の拡充であった。環境教育活動では、教育キャンプを通し、児童が環境問題と取り組むべき課題をわかりやすく工夫したこと、更には、アーシャ学校のレギュラー授業として取り入れる努力を現場の教師がしていることの意味は大きいと考えられる。

農村母子保健事業においては、農村女性リーダーからなるヘルスボランティアが独自に活動できるように、ボランティアの中から2名のリーダーを訓練している。このことによって、農村女性の参加がより積極的になり、更には、農村女性自身が自立して行える事業として考えられるようになったことは大きな成果であるといえよう。

一方で、有機農業を柱とした持続可能な農業推進事業は停滞している感が否めない。今後、食品加工事業や収入向上事業と連携しながらその事業推進のために、より一層の努力をする必要がある。

1. アーシャ職員及び専門家専門家派遣事業

(1) 現地スタッフ

2008年度は、アーシャより日本人スタッフとして川口景子、町上貴也、本川南海子、3名を派遣した。

川口は、事務局兼会計主任として、総務事務及び、多岐にわたる複雑な会計業務に取り組んだ。彼女の誠実に働く姿勢は、現地スタッフからも高い評価を得ている。また、多忙な中、養鶏関連の講義と実習、アーシャ学校生徒の環境教育事業推進にリーダーシップを発揮し、環境教育のテキスト、パンフレット、教育ビデオ作成を現地スタッフと協力し、成し遂げた貢献は大きい。川口と彼女の夫であるサミール・トプノは、2009年6月より、2年間休職し、フィリピン国立大学大学院修士課程で学ぶ予定である。

町上は広報及び収入向上事業に関わった。本会の会報、アラハバード農業大学継続教育学部の英語の会報(Harvest)及び年次報告の編集は彼が主に行った。彼の編集センスと技術は当学部内外から高く評価されている。また、川口の後継者として、2009年4月から事務局と会計の責任を担う。

(2) ボランティアスタッフ

本川南海子は、食品加工及び女性自助グループ(SHG)青年クラブ活動事業の分野で活躍した。今年度当初、2つのSHGと1つの青年クラブしかなかったが、今年度においては、8つのSHGと二つの青年クラブが組織された。識字学級はSHGの女性を対象に、4つの村で開校した。

この他に、10ヶ月研修コースの学生のために、英語や開発、SHGなどのクラスも担当した。

本川のアラハバード農業大学継続教育学部での任期は、2009年5月末である。彼女の後任として、3月よりソーシャルワーク修士を持つ女性1名を採用した。

町上広子（町上貴也の妻）が2009年1月15日よりアラハバード農業大学継続教育学部に赴任した。現在、ヒンディー語の研修を行っているが、7月より食品加工とマーケティングの分野でスタッフとして働く。

この他に、酪農学園大学・地域環境学科を卒業した佐々木希が2009年2月下旬より当学部に宿泊し、英語を修得するため、アラハバード市内の語学学校に通っている、5月中旬よりベナラシの語学学校でヒンディー語を学び、8月1日よりボランティアスタッフとして、環境教育と研修コースの事務を行う。また、同様に、つくば大学国際関係学科3年の女子学生が、休学し、8月1日より2009年1月中旬まで総務のボランティアとして現地で働く予定である。

（3）派遣短期専門家

2年前より力を入れている、健康栄養、農村母子保健の事業を支援・協力するために、短期専門家として、三浦孝子（母子保健・母乳育児専門）、奥村昌子（健康栄養）を派遣した。冒頭に述べたように、両者の協力による農村保健改善事業は大きな成果を上げている。特に、彼女たちの専門的な知識と技術提供の効果があって、農村レベルでの女性ヘルスボランティア育成が着実に行われている。この貢献は非常に評価してよいであろう。将来、県や州レベルの厚生・医療関係当局に働きかけ、より有効な母乳育児推進事業、栄養改善事業を行っていく必要が今後でてくると考えられる。

また、昨年同様、食品加工・健康調理分野でも3名をアラハバード農業大学継続教育学部に派遣した。高丸和彦は、大豆発酵食品の技術をウットラカンド州のムスリーとアラハバード有機農業組合の農村女性スタッフに伝授した。今では、高丸氏がいなくても、彼女たちが全ての工程をやることができるようになった。昨年仕込んだ味噌は500kであったが、味噌の受注が好評なために、今年は2200kg仕込み、また、醤油も700kg仕込んだ。これらの加工品は、当組合の貴重な収入源となっている。

石原潔は主に肉加工分野でソーセージ、ハム、ベーコン製造に活躍してくれた。当学部スタッフ、及び組合女性7名がこの技術をほぼ修得している。しかしながら、肉加工品は、材料が高価であるために、高い価格設定を余儀なくされる。このため市場開拓が非常に難しい。この他、製品の安定化、食品衛生、冷凍貯蔵などまだ課題は多く残っている。

この他に三浦照男が中心になり米酢の生産を始めた。今年は150kgの酢を生産した。インドでは、合成酢が一般的に使われ、本醸造酢がない。米酢をすることによって、野菜の酢漬けなどの二次加工を行い、野菜に付加価値をつけることによって、有機栽培野菜の普及と収入向上に寄与できると考えている。酢は健康に良く、また、インドカレーの付け合せにも合うので、これから研究すれば、インドでの需要は高まると考えられる。実際に、赤カブの酢漬けは、デリーでは非常に好評であった。この他、上記の味噌、醤油などをつかった野菜や肉の漬物を今後の有望加工品として開発中である。

2. その他の支援協力活動

- ① アラハバード農業大学継続教育学部における2008年度の「10ヶ月持続可能な農業研修コース（SCSA）」の支援：

今年度は、ミャンマー4名を含む約10名の新入生を当学部が受け入れた。この内、アラハバード県マエダ村出身の青年が中途退学した。寮の生活、農作業が合わなかったようである。よって今年度は9名の卒業生を送り出した。ミャンマーの卒業生2名（男女各一名）が卒業生インターンとして有機農業と食品加工分野で、2009年7月より働きながら学ぶ予定である。

② 女性と農村青年のための自助グループ組織づくりに対する支援：

特に、アラハバード県内のマエダ村、バルゴナ村、カンジャサ村、ハルディー村に力を入れた。これらの村には、現在8つのSHGと2つの青年クラブが組織されている。更に、ハルディー村を除いた、3村にはSHGの女性を対象にした識字教室がもたれている。

③ 貧困農民のための所得向上活動のための支援：

有機農産物、ニーム製品、食品加工品等の販売に力をいれた。有機農産物については、まだ十分な販売態勢ができていない。今後も有機農業組合をとおして、この分野の更なる努力が必要である。

④ NGO・農民のための持続可能な研修事業の支援を行う。農村女性のための事業として、農村女性のための裁縫教室研修事業の助言活動及び、裁縫技術を用いた収入向上事業の支援：

この研修事業によって、アーシャ学校の制服60着以上作った6名の農村女性に対し、足踏みミシンを贈与した。

⑤ 貧困家庭の農村教育支援活動：

年度当初、アーシャ学校は9村、9校で、全児童が550名であったが、運営と基盤整備の効果があって、670名に増えた。今年には特に、上級生徒に対する環境教育の向上、そして、教師の質を高めるための研修に力を入れた。学校の基盤整備として、特に、屋根を藁葺きから瓦葺にし、床は土からセメント床にした。また、座卓と各学年に最低限の教科書を各学校に備え付けた。これらの整備により、児童、生徒がよりよい環境で学ぶことができている。

⑥ 奨学金の供与：

アーシャ学校の卒業生を中心に、高校、大学生25名に対し、授業料に相当する奨学金を与えた。この他に、アラハバード農業大学継続教育学部の学生スタッフ1名、アーシャ学校（2009年1月から学部のスタッフ）の先生1名に奨学金を供与した。かれらが、大学卒業後、農村開発・農村教育事業のリーダーとして貢献してくれることを期待している。

⑦ 「第5回持続可能な開発セミナー」開催支援：

2009年2月8日から22日まで、アラハバード農業大学継続教育学部で行った。上記の短期派遣専門家が講師として参加した。

⑧ 第4回収穫感謝祭開催の支援：

2009年2月21日に実施した。上記のプロジェクトに関わっている農村住民、青年団、SHG、アーシャ学校の児童など、約200名近くが参加した。当学部の有機農業技術の紹介・展示を行った。また前日まで参加していた、NGOの活動紹介、歌・踊り等様々な催しを行い、よい交流の場となった。同時に、広く、持続可能な農業普及、アラハバード農業大学継続教育学部の活動等を他のNGO、大学、政府機関関係者に理解していただくよい機会であった。

⑨ アーシャ主催のワークキャンプスタディーツアーの企画、実行：

2009年3月に実施される計画であったが、参加者が集まらず、中止した。今後のツアーの募集方法等に検討の余地がある。

⑩ 活動報告会：

2008年6月から7月にかけて、アーシャ理事である三浦は、北海道、山形、東京、に於いて、プロジェクト支援者を中心に、集中的なインドプロジェクトの紹介を行った。

⑪ 広報活動：

アーシャの活動、アラハバード農業大学継続教育学部のプロジェクトをより広く理解していただくために、昨年度は4回の会報を発行した。ホームページは、財団や個人向け、本会事業の広報に役に立っているが、2年前に立ち上げたホームページがほぼそのままになっているので、その改定を行う必要がある。

⑫ ミャンマーへのスタディーツアー参加：

(社)国際農林業協働協会の支援で、アーシャより三浦、川口、本川、それにアラハバード農業大学継続教育学部のスタッフ、A.K.ミシュラとサントシュ・クマールの5名が、2008年12月の10日間、ミャンマーを訪問した。特に、当学部に学生を送り出している団体、ミャンマーバプテスト総会、Metta Development Foundation, カチン独立機構(KIO)農業大学校、ミャンマーキリスト教協議会を訪問し、交流、意見交換などをおこなった。当学部の卒業生の職場を視察見学し、かれらのおかれている状況を多少なりとも理解できたことは、今後研修の質的向上を計る上で非常に有意義であった。

3. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
農村指導者研修所の運営を支援する事業	僻地農村学校校舎の修築事業	随時	随所	1名	児童とその家族及び教師約500名	89
未就学児のための初等教育施設の運営を支援する事業	① アラハバード県の僻地にあるアーシャ学校の低学年児童を対象にした環境教育を行う。(イオン環境財団)	随時	アラハバード地区	5名	児童600人	1,000
	② 農村青年、農村女性の組織作りのための支援(今井記念海外協力基金)	随時	アラハバード地区	5名	青年・女性100人	1,000
	③ 同アーシャ学校校舎の基盤整備と教師の研修支援、制服作成(ひろしま・祈りの石国際教育交流財団)	随時	アラハバード地区	5名	児童600人 教員25名	1,500
奨学金を支給する事業	アラハバード県の貧困家庭に対する奨学金	随時	アラハバード地区	3名	20名	112
農村の地域開発と農業の改善及び普及を支援する事業	② 三浦孝子・奥村昌子を母子保健・栄養専門家として短期派遣し、母子保健、母乳育児の農村ボランティアの育成支援。(味の素技術者派遣)	2008年2月から2ヶ月間	インド・アラハバード地区	4名	インド・UP州アラハバード地区3万人の農村住民	2,000
	③ 環境保全緑化推進事業		インド・アラハバード地区	2名	実施農民と周辺住民約5千人	376
	④ ミャンマーへのスタディーツアー	随時	ミャンマー・ヤン	5名	ミャンマーの開発NGO 2	1,521

			ゴン、カ チン州		00人	
	⑤食品加工、有機農業専門家をアラハバード農業大学継続教育学部に派遣し、健康栄養、有機農業普及の支援をする。 (JICAF 支援)	2007年 2月より 一ヶ月間	インド・ アラハバ ード地区	4名	インド・UP州 アラハバード地区 3万人の農村 住民	3,568
	① 日本国内における学生及び市民のためのセミナー及び講演の企画、主催、及び参加	随時	日本各地	3名	500	50
事業を推進するための調査研究及び、啓発広報活動	② 会報の発行	年4回	日本、インド、米国	1名	日本国内、インド、米国200人	31
	③ ホームページ維持費	随時		2名	日本語が読める不特定多数	44
	④ ワークキャンプ・訪問者受け入れ事業	随時	アラハバード	3名	50名	458
事業に係わる管理費	事業の円滑な運営のための管理費	随時	アラハバード	2名		805
合計						12,554

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	支出額 (千円)
実施無し					0